

普代村での体験について

2015年9月29日

武蔵野大学環境学部環境学科環境学専攻2年 鈴木遥日

夏休みを利用し今回岩手県の普代村を見学(体験、観光)させていただいた。お世話になった普代村地域おこし協力隊の鬼東さんとは今年の5月19日に表参道で開催されたワークショップで出会い、協力隊の活動のことなどを少しだが伺った。そしてその後も鬼東さんによってSNSに投稿される普代村の情報。素直に「普代村に行きたい。」そう思っていたが、それから数ヶ月。まさか本当に自分が普代村にいるとは思ってもいなかった。

大学入学後、自分が住む日本という国をもっと知りたくて、美しい日本が見たくて、さらに言えば「地域・地方」「地域活性化」などというワードが気になっていることもあり、自分が行きたいと思った場所は今まですべて足を運んできた(まだ数は多くないが)。しかしその多くは山村地域。山の中が多かったように思う。海があったのは鹿児島県の諏訪瀬島くらいであった。

8月31日。青春18切符を使用して16時間ほど。友人がいればその時間も熱く未来のことを語ったり、趣味の話で盛り上がったり・・・すればいいのだが一緒に行った友人は14時間くらい、確実に寝ていたため、本が一冊読み終わった。起きているときは基本食べていたように思う。



ひたすら電車で揺られながら久慈駅に到着。そこから普代村へは鬼東さんが迎えに来てくださり快適に行動できた。なにより駅について思うのは、やっぱり真っ暗。タクシーがあるからまだ安心。一人だったら不安でたまらなかっただろう。少し話をしながら宿泊施設へと向かう。確かにガードレールもなく雪が降る地域だということを感じる。そして肌寒い。宿泊施設は思っていたよりもずっと立派なもので、とても快適に眠れた。生活するのにほとんど困らない。この場所を無料で借りることができるなんて・・・。こんなにもおいしい情報をみんな知らないなんて損だなあ～と思い、にやにやした。村に大学生がたくさんやってきたら、それはいいことなのかどうなのかは村の人ではないのでわからないが、行動したくてもお金が・・・という学生はかなりいるのでうまく宣伝をすれば利用したい人が増えそうと思った。田舎と呼ばれる場所に行くと「コンビニがないから不便でしょ～」などと声をかけられることが多々ある。しかしきっと村の方々が思っているほどコンビニは利用しないのでそのあたりは困らない。むしろ今の若者にとっては電波が繋がらないというほうが大きな問題に思えた。わざわざ時間をかけて田舎と呼ばれるような地域に行ったのにそこでコンビニに行きたいと思う人は少ないだろう。多少困ってもそれが学生に

とっては良い経験であり良い思い出となる。



電波があったほうが良い理由として、非日常的な体験をしていて満たされている、ということを外に発信したい人は多いような気がするし、その活動を見てその地域に興味を持つ人もいると思う。また、自分はゲームなどをしないが、少なくとも地方が移住者を求めているとすれば、その移住者は必ずしも農作業が苦じゃない、自然が好き、アウトドア……でいる必要性はないであろう。そんな人が来てくれたら嬉しい、などという理想はあったとしても現代において趣味でゲームをしたり、映画を見たり、



ネットで繋がりあったり、そのようなことが普通となっている今はネットが繋がらないだけで大きな不安要素になるのは間違いないと思う。人によってはPCひとつで仕事をしたりもするので。

9月1日。よく眠れた。そして目覚めもいい気がする。今日はまず鬼束さんの畑の師匠に会いにいけるということで早速向かう。師匠こと

丹治さん。ここの畑は色々な所に色々な作物や花などが育っていて、とってもおしゃれ。こんな感じの自然なのか畑なのか、みたいなのがうらやましい。畑にははじめて見るものもたくさんあった。アスパラの実やピンク色の豆、ぶどうが木になっているところなどなど。そして朝食をいただいた。なんと松茸。普段食べることのない松茸がこんなにもご飯の中に入っている。どのおかずもおいしくて、うまく表現できない気持ちになる。自分はずっと千葉県で育っているのが、どこか懐かしいような。その後役場にご挨拶へ。役場は私の住む市の市役所よりもきれいであった。役場の中は急にスーツの人がいて現実味があったがみなさん雰囲気は素敵な方ばかりであった。近くのアンテナショップ「あいで」では鉄山染めのストール、普代ならではの食べ物がたくさんあり、素敵。もう少し店内をポップな色にしてもかわいいだらうな、なんて考えたりもした。そのあと連れて行っていただいた普代水門が私の中ではかなり衝撃的であった。そこを訪れるまではあまり震災の影響など考えていなく、津波来たのかな？くらいに軽く考えていた自分がいた。しかし水門の上の方に津波がどこまで来たかが記されており、その高さは想像しただけでもゾッとする高さであった。またその先の砂浜は波にもっていかれてしまったことと、水門付近の看板に載っていたQRコードから見ることのできる動画も見て震災、津波の恐怖を思い知った。その後も展望台や海辺のほうにも連れて行っていただいた。砂浜に天然の昆布が落ちていた。友人は食べていた。

海を少し高いところから見ると昆布のような海草が岩にくっつきながら波と一緒に動いて

いた。それがとてもおもしろくていくらでも見ていられそうだった。よく食べる海草だがその生態についてはあまり知る機会が今までなかった。環境学部の授業のなかで、海草が汚染された水(汚い水)を浄化している、というのは聞いた。普代の海がきれいなのはなぜだろう。海草パワーなのか。千葉の海とは雰囲気もまったく違う。無心になって何時間でも眺めていられそうな海だと思う。昼食は磯ラーメンをごちそうになった。初めて聞く磯ラーメン。海の味がいっぱいあったラーメンで、こんなものまでラーメンに入れちゃうの?!と思うようなものまで入っている。あっという間に食べ終わってしまった。ラーメン【大上食堂】を食べて贅沢な気分になったのははじめてであった。続いて、あの大ヒットドラマあまちゃんて有名な堀内駅へ。

電車を見るのも好きな私にとってはかなりテンションが上がった。また電車の音が東京の電車とは違う。車みたいだが、バスみたいで、がんばって動いているのがわかる感じである。駅と風景のマッチ具合も、もう自分が生きてきた世界は嘘であるかのようにのどかで、今も東京では人々が忙しく働いているとは思えなかった。住みたい。その後畑での作業をさせていただいた。初めてじゃがいもを掘る。じゃがいもがごろごろ出てくる。はじめての経験と驚きで思わず笑えてくる。種【春菊・雪白平菜】をまいたり、土を耕したり。大学では併設しているカフェの横でプランターを使用しながら野菜を育てたりしているので普通の大学生よりは土に触れている自信があるが、それでもこの畑の土はふかふかであったかくて、生き物もいっぱいいて、幸せであった。



9月2日。ここ数ヶ月、ずっと染物に興味があり、草木染を自分でしたくて、たまねぎの皮を集めている。そんなときに普代に来て、鉄山染めの存在を知る。鉄山染め、、?聞いたことがない。アンテナショップにストールが売られており、大学生には簡単に買うことのできる値段ではなかったのが自分のことだから我慢できずに帰りに買ってしまおうと思っていた。そのくらいとても魅力を感じていた鉄山染めの体験ができることになった。今回は化学染料を使用した販売されていたストールは茜を使用したりしてきれいな桃色



などに仕上がっていた。体験ではピンクかブルーを選択できた。ここでも色に迷ったがハンカチはブルーにした。後にテンションも高まり着ていたパーカーもピンク色に染めた。最近、そのハンカチを3日に1回くらいの頻度で使っている。とてもお気に入りだ。これももっと広げようと思えばかなりおもしろいことができたりしそうだが、その気はないのであろうか。こんなに素敵なのに

聞いたこともなかった。

その後、丹治さんの家に戻り料理を教えていただく。取れた野菜で天ぷらを作る。私たち2人は実家暮らしなのもあり料理はしない。むしろ全くできない。(高校時代にお弁当を作ったくらい) 今回の生活のなかで自炊することも数回ありそこではじめてカレーを作った。野菜を冷蔵庫で保存するのも難しいと思うほど残念な2人であった。しかし家に帰ってからいろいろ試したくなってお菓子を作ってみたり、筋子を買ってきていくらづくりをしたり、土鍋でご飯を炊いたりした。実際親からだと教えてもらいたくても今まで散々してこなかったのもあり教えて、の一言を言うのが恥ずかしかったりする。しかし村では気になったら簡単に甘えてしまう。ここで経験したことで確実に私の生活や考え方が少しではあるが変わったと思う。



9月3日。家の中に虫がなぜか大量死している。どこかの窓が開いているのだろうか。むしろ初日とかに全く虫がいなかったのがすごい。この日は朝早く起きて鶴鳥神社へ。暗い中朝日を見るために上る。正直かなりこわかった。夜の森なんて行ったこともない。しかし上ってみればそれは、それは、すべてどうでもよくなるほどの最高の景色が待っていた。何時間でも見ていられるが本当に一秒一秒、朝日は表情が変わる。普代は海も山もある。自然の宝庫だなあと改めて実感した。その後は船に乗せていただいた。もち

ろん船に乗れることは嬉しかったがそれ以上に普段遭遇することのないウミネコに2人してメロメロであった。パンを買ってあげてみる。サーカス団の人にでもなったような気分が味わえた。風景は思わず「ここは外国か！」と言ってしまいたくなる岸壁や地形の形がおもしろい。小さな島で探検したくなる。海は相変わらずきれいであった。大興奮のクルーズの旅の後はカネシメ水産で金子さんにお会いし、神経メを見せていただいた。こちらにもまた聞いたことがない言葉。新鮮な状態を長持ちさせるその技術に感動の連続でメモをとった。手間がかかる作業であっても神経メのようなすばらしい技術が世の中にたくさん残ってほしい。そして自分の周りにはほかにどんな技術があるか調べたい(いろいろな分野で)。本当にいいものを選んで生きたい、と最近よく思う。



普代のお店があるほうのエリアでは思っていたよりにぎわっていた。その商店【越戸商店】の雰囲気も好きだ。焼き鳥なんかも売っていて、どれも写真に収めたいと感じる。この自分の中に生まれている感情を説明できないけれど友人や知り合いに感じてほしくなる。本当の豊かさとは何なのだろうか。



9月4日。丹治さんのところでかりんとう作り。ぐるぐるしている「かりんとう」。見た目もかわいい、そして美味しい。丹治さんのおうちでは良くしていただければかりで温かくて、本当に楽しくて嬉しくて感動することもいっぱいあった。最終日なので役場に挨拶に伺う。私が普代のキャラクター(特にすっきい)がとっても気に入

って大好きになったところを役場で話すとなんとすっきいとえんぞーの缶バッジをいただいた。感激してカメラのヒモにすぐにつけた。とても温かい人が多かった。役場の方と普通にお話できる機会は少ないが、普代に来ることができて嬉しかったことを伝えられて良かった。その後アンテナショップでやはりストールを購入。色を迷いすぎ店員さんにまでも相談した。今でも肌寒い日には持ち歩いていろいろな人に自慢している。その後はワカメ

王子総選挙のお弁当試食会にお邪魔させていただいた。ワカメがきらきらしていたり、ひっそりとワカメが使われていたり、どのおかずもワカメってこんな料理にもなるの?!と思うようなものばかりでワカメに可能性を感じた。このようなイベントは大変面白いと思う。しかし宣伝が難しいとも思う。SNSを利用してそのページを探すまでに時間がかかってはなかなか目に留



まらない。たまたま見つけてこのようなイベントに来る人もいるかもしれないが、イベントを探している人もいる。私はまさにこのタイプで面白いイベントをよく探しているがなかなか検索しても見つからず、どんなキーワードで検索したらいいのだろう、といつも思う。やはり大きなイベントのサイトなどに載せるのが有効なのだろうか。そして宮古駅まで送っていただき、いよいよこの数日間とてもお世話になった鬼東さんともお別れ。初めてお会いした時の雰囲気と久々にお会いしたときの雰囲気と最終日の雰囲気はどれも違い、とても優しく面白くて素敵なお方で、5月のときに知り合えて本当によかったと心から思った。普代という場所も気に入りましたが今回お世話になった皆さんのことも好きになり、また普代に行きたいなあとすぐに思った。ありがとうございました。



・受入側の村の支援についてどんなのがあればいい？（例：交通費補助等）

交通費はもちろん補助があったほうが嬉しいが、いきなり知らない場所に来る身としてはやはりガイドのような人がいてくれると助かる。それかわかりやすいマップなどをもただけると村のこと(どこにどんなものがあるか)もわかると思う(写真つきのしっかりしたパンフレットよりは手書きとかのほうが可愛くて女性は好きそうだった。基本マップなどをきちんと読み込むのは女性が多い気がする)。きれいな景色の場所、おいしいごはん、などマップにする場合は情報を詰め込みすぎないのも重要だと思う。村の方が本当におすすめ(自慢)できる情報を載せるべきだと考える。人によってはガイドなど現地の方が説明してくれたほうが村の人とも仲良くなれ、村に自分の居場所が少しでもできればまた来たいと思うであろうし、移住なども考えやすい。また交通費もだが、それよりも車を貸してくれたりしたほうが嬉しいのかもしれない(レンタカーを借りればいいのだが)

・宿泊場所の名称が「自然体験学習施設」ですが、愛称つけるとしたら？

北緯 40 度東端の地球村より「ちきゅー村」（漢字だとかたいような気がして・・・平仮名で）

・普代の印象は？

行く前はかわいいゆるキャラがいるところだなあと思っていたが行った後の印象は海があり山がありすごく得した気分になる村。きれい。おいしいものもいっぱい。「本当の贅沢はここに」という感じ。

・普代の復興の印象は？

ここまで震災の影響を受けていると思っていなかったが、実際に訪れて津波の事実などを知り、驚いた。津波がそんなにも来たように思えなかった。トレッキング？の道のところだけ唯一それを感じたが言われなければ津波があんなにも来たとは思えないくらいきれいであった。

・次来たら何をしてみたい？

丹治さんのところで豆腐作り もっと海でいろいろできることをやってみたい(釣りとか)

・自分で自由に行動するとしたらどんなところを見たい？

星を見たい たただだ散歩。普代の風景を楽しみたい。気が済むまで歩いて、たそがれたい。

本当に素敵な村だと思います。お世話になりました。

ありがとうございました。

鈴木遥日